

2024年
6月16日

筑波マイスター・トロフィーが開催決定!

今年は様々なレースで一味違う楽しみが!?

全日本格式のJ-GP3クラス、MFJカップJP250に加えて、今年も筑波マイスター・トロフィーのオリジナルクラスとしてマイスター250、OVER60Kid'sの2クラスの開催が決定! マイスター250クラスは共に改造範囲が広く、ライダーの好みにカスタマイズされたマシンがコースを疾走する姿を眺めるだけでも興奮するはず! また250ccの中でも単気筒のSクラスと、2気筒以上のMクラスがあり、それぞれの戦いがあるのも魅力の1つです!

OVER60Kid's、耐久レースに、ポケバイなど様々なクラスのレースが開催されるため見応え間違いなし!
「我こそは筑波職人(マイスター)」というライダーたちの頂上決戦、乞うご期待!!

クラス紹介

マイスター250 2000年以降に発売された250cc以下の4サイクルエンジンを有する車両で争われます。こちらは排気量以外、型式・構造・気筒数について制限は設けていません。ただし市販レーサー(競技専用車両)のエンジン・フレームおよび、オリジナルフレームの使用は認められていません。個体数も市場に多く出回っており、昨今人気の250cc車両を自分好みにカスタマイズしたい方に最適のクラスです。近年、4ストローク車両の進化は目覚ましく、かつての2サイクルエンジン車に近づきつつあり、その進化にも注目の一戦となります。

参加車両例
JP250、筑波TTのNT2、NS2などに出場可能な車両。CBR250RR、YZF-R25、Ninja250R、CBR250R、NinjaZX-25R等



OVER60Kid's その名の通り、60歳以上の「子供たち」を対象としたこのクラス。月刊ライディングスポーツ誌の青木淳編集長が自らの還暦を期に賛同者を集めて60歳以上を対象としたレース開催を希望し、筑波サーキットが応える形で実現したこのレース。車両は250cc以下の4サイクルエンジンを有する車両で争われる12週のレースとなっています。

参加車両例
CBR250RR、CBR250R、Ninja250R、Ninja250、G310R、RC390等



DUNLOP杯HRC筑波ミニ耐久ロードレース

全国にて各所で開催されるミニバイクレース。その中でもGROM・NSFを対象とした耐久レースが筑波でも開催決定!!
2022年筑波主催で唯一の耐久レースだった「耐久茶屋」が終了となり、耐久を望む声は各所から上がっており、新たな耐久レースに盛り上がり期待されます!



ポケバイエキシビジョン

毎年恒例となっているこのレース。ポケバイに乗った子供たちがTC2000を3周回駆け抜けます。ロードレースの登竜門として数多くの選手が通った道ポケバイ。将来のスター選手がこの中に!?



4ストローク250cc単気筒のレーサーで争われているJ-GP3クラス。MotoGPロードレース世界選手権Moto3クラスに直結しており、若手ライダーは、世界を目指し、ベテランライダーは、その壁になるべく同じ土俵で戦っています。トップスピードこそ大排気量クラスのマシンには劣りますが、コーナリングスピードでは、それをしのぐ速さを見せるのが特徴。高いコーナリングスピードをいかに維持しながらコーナーを曲がるかという、小排気量ならではのテクニックが要求されるクラスです。常に混戦模様で、ポジションを入れ替わることも多く、見応えのあるレースが繰り広げられています。マシンは、Hondaがレース専用として市販しているNSF250Rが大勢を占めていますが、オーストリアのKTMも速さを見せています。



※「MFJ SUPERBIKE official Fan-Site」より文章抜粋



国内のみならずアジア全体で盛り上がりを見せている4ストローク250ccスーパースポーツクラス。ロードレースの底辺拡大並びに新規参加者の増加を図る重要なカテゴリーとしてスタートしました。

全日本選手権のピラミッドの底辺を支える重要なクラスとして「MFJカップ」の名のもとに行われます。キッズライダーがミニバイクを卒業し、このJP250にステップアップする姿が見られます。車両価格が安く、パワーが低くミニバイクからの乗り換えが容易なことなどメリットは数多くあります。



筑波マイスター・トロフィーの情報は、筑波サーキットホームページやSNSで随時更新致します!
今年は昨年とは違った特殊なチケットやイベントも!? 気になる方はSNSのフォローもお願い致します!



ACCESS 都心から70分!! 圏央道開通で楽々アクセス

